



男女共同参画
社会づくり
を
ご存知ですか？

男性も女性もみんないきいきとした関係に！

支え合う大切さ

「男性だから」「女性だから」と、家庭や社会で役割が決めつけられたり、やりたくてもできないことがあったりしたなら、それはとても残念なことではないでしょうか。男性も女性もお互いの違いを認めあい、理解しあって、思いやりを持って暮らしていくことが大切です。

男女がともにその能力や可能性を存分に発揮できる社会を目指して、町や企業、そしてみなさん一人ひとりが行う取り組みが「男女共同参画社会づくり」です。今回は、いきいきナイス・パートナーの2組をご紹介します。人がいきいきと輝く社会は、地域、そして家庭から。みなさんも“ナイス”な関係の秘訣、学んでみては？



いきいきナイス・パートナー 高橋さん夫婦

『生まれ変わっても一緒に…』とまでは
言えないけれど、これからもよろしく。

ナイス・パートナー

たかはし ぜんいち

高橋 善一 さん



たかはし ひでこ

高橋 秀子 さん 夫婦（東福沢）

季節により、サイネリア、チューリップ、シクラメンなど様々な花きを栽培し、市場や個人の方に出荷している高橋さん夫婦。こまめな管理が必要な花き栽培は、二人の協力が不可欠で、お互いに仕事を分担しながら行っています。善一さんは、毎日、秀子さんが作る3度の食事をいつも楽しみにしているそうです。30年続く花き栽培のかたわら、善一さんは消防団などの地域活動、秀子さんは地区の集まりや料理教室などに積極的に参加するなど、二人とも生きがいを持って暮らしています。二人で、これからも元気な花を育てていくことが目標です。

二人で一つの人生を

「花の栽培は、水やりに換気、温度管理など、毎日のこまめな管理が大切だから、一人での作業は考えられない。二人で、良い花を作りたいという思いを共有してきたからこそ、ここまでこれたんじゃないかな」と話す善一さん。

秀子さんは、「夫が消防団の活動で突然出勤したりするとやつぱり大変だけど、花の栽培も家事もお互いに理解しながら楽しくやっています」と話します。

二人の花き栽培が始まったのは、長女が生まれた30年前。当時は子どもを背負いながら作業したり、ハウスの中で昼寝をさせたりもしていたそうです。

命ある花を育てていると、家を留守にすることができないため、365日ほぼ毎日、二人一緒の作業が続きます。

善一さんは、「毎日一緒だから小さいけんかはよくするけど、いつの間にか自然に仲直りしている。時間が解決するようなものだけ、妻の方が我慢していることが多いと思う。仕事も二人三脚で支えてもらっているし、家事もすべてやってくれている。こうして仕事に熱

心に取り組めるのも妻のおかげだと思っています」と言います。

「私は、生まれ変わっても一緒になんて言葉は言えないけれど…、（善一さんに）これからもよろしくと伝えたいです」と秀子さんは笑います。

二人の目標は、これからもできるだけ長く二人で元気な花を育てていくことだそうです。

常に二人で一つの目標に向かって歩んできた35年、変わらない穏やかな二人の関係は、花を育てるような優しい気持ちで築かれています。

二人とも、言葉に出さなくても、互いに伝わるものがあるそうです。それはきっと、二人の心の中に、相手を思いやる気持ちがあるからなのだと思います。

たくさん花の前で笑う二人の笑顔は、どんな花よりも輝く満開の笑顔でした。

↓ビニールハウスで栽培している路地菊への水やり作業のようす。



いきいき かわまた ナイス・パートナー賞

町は、男女共同参画社会づくりの取り組みにおいて、「いきいきと助け合う夫婦の模範」となる夫婦をナイス・パートナーとして表彰しています。そのほか、ナイス・ファミリー賞（家族）、ナイス・パーソン賞（個人）の表彰があります。今年は、本記事に掲載した2組がナイス・パートナーとして男女共同参画推進委員会の方から推薦があり、表彰されました。